

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6861846号
(P6861846)

(45) 発行日 令和3年4月21日(2021.4.21)

(24) 登録日 令和3年4月1日(2021.4.1)

(51) Int.Cl.	F 1
E O 5 D 15/06 (2006.01)	E O 5 D 15/06 1 2 3
E O 5 D 15/26 (2006.01)	E O 5 D 15/06 1 1 9
	E O 5 D 15/26

請求項の数 21 (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2019-559810 (P2019-559810)	(73) 特許権者	597140501
(86) (22) 出願日	平成30年5月4日 (2018.5.4)		ユリウス ブルーム ゲー・エム・ベー・
(65) 公表番号	特表2020-518743 (P2020-518743A)		ハー
(43) 公表日	令和2年6月25日 (2020.6.25)		J u l i u s B l u m G m b H
(86) 国際出願番号	PCT/AT2018/000043		オーストリア国 6973 ヘーヒスト
(87) 国際公開番号	W02018/204955		インドゥストリーシュトラッセ 1
(87) 国際公開日	平成30年11月15日 (2018.11.15)		I n d u s t r i e s t r a s s e 1 ,
審査請求日	令和1年10月31日 (2019.10.31)		6973 Hoechst, Aust
(31) 優先権主張番号	A50392/2017		r i a
(32) 優先日	平成29年5月11日 (2017.5.11)	(74) 代理人	100114890
(33) 優先権主張国・地域又は機関	オーストリア (AT)		弁理士 アインゼル・フェリックス＝ライ
			ンハルト
		(74) 代理人	100098501
			弁理士 森田 拓

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 家具部分を移動可能に支持するためのガイドキャリッジ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ガイドレール (6) に沿って家具部分 (3 b) を移動可能に支持するためのガイドキャリッジ (8) であって、前記ガイドキャリッジ (8) は、回転可能に支持された少なくとも1つのころ (18) を有した滑走機構 (12) と、前記ガイドキャリッジ (8) を前記家具部分 (3 b) に接続するための少なくとも1つの接続部分 (14) とを有している、ガイドキャリッジ (8) において、

少なくとも1つの位置決め装置 (23, 23 a) が設けられており、前記位置決め装置によって、前記接続部分 (14) は、前記滑走機構 (12) に対して相対的に、少なくとも1つの直線方向 (H, X) に沿って位置決め可能であり、

前記接続部分 (14) は、前記滑走機構 (12) に取付け装置 (19) を介して取り外し可能に接続可能であって、前記少なくとも1つの位置決め装置 (23, 23 a) は、前記取付け装置 (19) とは別個に形成されていて、前記接続部分 (14) に配置されていることを特徴とする、家具部分 (3 b) を移動可能に支持するためのガイドキャリッジ (8) 。

【請求項 2】

前記接続部分 (14) は、前記滑走機構 (12) に前記接続部分 (14) を懸吊することにより、前記滑走機構 (12) に取り外し可能に接続可能である、請求項 1 記載のガイドキャリッジ。

【請求項 3】

10

20

第1の位置決め装置(23)と、少なくとも1つの第2の位置決め装置(23a)とが設けられており、前記接続部分(14)は、前記第1の位置決め装置(23)によって高さ方向(H)に沿って前記滑走機構(12)に対して相対的に調節可能であって、前記第2の位置決め装置(23a)によって側方方向(X)に沿って前記滑走機構(12)に対して相対的に調節可能であって、前記第1の位置決め装置(23)と前記少なくとも1つの第2の位置決め装置(23a)とは前記接続部分(14)に配置されている、請求項1または2記載のガイドキャリッジ。

【請求項4】

前記少なくとも1つの位置決め装置(23, 23a)は、前記滑走機構(12)に対して相対的な前記接続部分(14)の位置を受動的に調整可能な調整装置として形成されており、前記接続部分(14)と前記滑走機構(12)の間にはセルフロック式の接続が形成されており、前記接続部分(14)は、前記セルフロック式の接続に抗する力を付与することにより、前記滑走機構(12)に対して相対的に調節可能である、請求項1から3までのいずれか1項記載のガイドキャリッジ。

10

【請求項5】

前記滑走機構(12)は、支持体(13)に結合されており、前記接続部分(14)は少なくとも1つの取付け装置(19)によって前記支持体(13)に接続されている、または接続可能である、請求項1から4までのいずれか1項記載のガイドキャリッジ。

【請求項6】

前記支持体(13)はU字型に形成されている、請求項5記載のガイドキャリッジ。

20

【請求項7】

前記取付け装置(19)は、前記支持体(13)に配置された少なくとも1つの支持箇所(20)を有していて、前記支持箇所は、前記接続部分(14)の組付け状態で、前記接続部分(14)の凹部(21)内に係合する、請求項5 または6記載のガイドキャリッジ。

【請求項8】

前記少なくとも1つの支持箇所(20)は、組付け状態において、前記滑走機構(12)と実質的に同じ高さに配置されている、請求項 7 記載のガイドキャリッジ。

【請求項9】

前記支持体(13)は、高さ方向(H)で互いに離間されて位置する少なくとも2つの支持箇所(20, 20a)を有しており、前記支持箇所は、組付け状態において、前記接続部分(14)の、高さ方向(H)で互いに離間されて位置する2つの凹部(21, 21a)にそれぞれ係合する、請求項 7 または 8 記載のガイドキャリッジ。

30

【請求項10】

前記接続部分(14)は、前記支持箇所(20, 20a)への前記凹部(21, 21a)の懸吊により、前記支持体(13)に接続可能である、請求項 9 記載のガイドキャリッジ。

【請求項11】

前記少なくとも1つの位置決め装置(23)は、可動に支持された少なくとも1つの操作エレメント(27)を有しており、前記接続部分(14)は前記操作エレメント(27)の操作により、高さ方向(H)および／または側方方向(X)に沿って前記滑走機構(12)に対して相対的に調節可能である、請求項1から 10 までのいずれか1項記載のガイドキャリッジ。

40

【請求項12】

前記操作エレメント(27)は回転可能に支持されており、前記操作エレメント(27)の回転によりねじ山区分(24)が回転可能である、請求項 11 記載のガイドキャリッジ。

【請求項13】

前記接続部分(14)は、前記支持体(13)に取り付けるべき支持部分(17)と、前記家具部分(3b)に取り付けるべき少なくとも1つの取付け具部分(15)とを有し

50

ており、前記支持部分（１７）と前記少なくとも１つの取付け具部分（１５）とはヒンジ機構（１６）を介して、少なくとも１つの軸（２２）を中心として互いに旋回可能に接続されている、請求項５から９までのいずれか１項記載のガイドキャリッジ。

【請求項１４】

少なくとも１つの前記軸（２２）は、組付け状態において鉛直方向に延在している、請求項１３記載のガイドキャリッジ。

【請求項１５】

前記ヒンジ機構（１６）は、旋回可能に支持された少なくとも２つのヒンジレバー（１６ａ，１６ｂ）を有している、請求項１３または１４記載のガイドキャリッジ。

【請求項１６】

前記少なくとも１つの取付け具部分（１５）は、ベース部分（２９）と、前記家具部分（３ｂ）に取り付けるべきスライド部分（２８）とを有しており、前記スライド部分（２８）は、前記ベース部分（２９）に対して相対的に摺動可能に支持されていて、これにより前記スライド部分（２８）は側方方向（Ｘ）に沿って前記ベース部分（２９）に対して相対的に位置決め可能である、請求項１３または１４または１５記載のガイドキャリッジ。

【請求項１７】

前記スライド部分（２８）と前記ベース部分（２９）とは摩擦接続的に互いに接続されており、摩擦力に抗する力を加えることにより、前記スライド部分（２８）は前記ベース部分（２９）に対して相対的に摺動可能である、請求項１６記載のガイドキャリッジ。

【請求項１８】

前記スライド部分（２８）と前記ベース部分（２９）とは少なくとも１つのばねエレメント（３０）を介して摩擦接続的に互いに接続されている、請求項１７記載のガイドキャリッジ。

【請求項１９】

前記取付け具部分（１５）は、高さ方向（Ｈ）において互いに離間されて位置する少なくとも２つのスライド部分（２８）を有しており、前記スライド部分はそれぞれ、高さ方向（Ｈ）において互いに離間されて位置する２つのベース部分（２９）に対して相対的に摺動可能に支持されている、請求項１６から１８までのいずれか１項記載のガイドキャリッジ。

【請求項２０】

少なくとも１つのガイドレール（６）と、請求項１から１９までのいずれか１項記載の少なくとも１つのガイドキャリッジ（８）とを備えた装置であって、前記ガイドキャリッジ（８）は前記ガイドレール（６）に対して相対的に移動可能に支持されている、装置。

【請求項２１】

請求項１から１９までのいずれか１項記載のガイドキャリッジをガイドレールに組み付ける方法であって、

第１の組付けステップで、前記滑走機構を、前記接続部分とは別個に独立して、前記ガイドレールに取り付け、

第２の組付けステップで、前記接続部分を、前記滑走機構とは別個に独立して、前記家具部分に取り付け、

第３の組付けステップで、前記家具部分を、前記家具部分に取り付けられた前記接続部分を介して、取付け装置を用いて、前記ガイドレールに取り付けられた前記滑走機構に接続し、

さらなるステップでは、接続部分と滑走機構との接続状態において、前記滑走機構に対して相対的な前記接続部分の位置を、少なくとも１つの位置決め装置によって調節すること、を特徴とする、方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

10

20

30

40

50

本発明は、ガイドレールに沿って家具部分を移動可能に支持するためのガイドキャリッジであって、ガイドキャリッジは、回転可能に支持された少なくとも1つのころを有した滑走機構と、ガイドキャリッジを家具部分に接続するための少なくとも1つの接続部分とを有している、ガイドキャリッジに関する。

【0002】

さらに本発明は、少なくとも1つのガイドレールと、上述した形式の少なくとも1つのガイドキャリッジと、を備えた装置に関する。

【0003】

さらに本発明は、ガイドキャリッジをガイドレールに組み付ける方法に関する。

【0004】

このようなガイドキャリッジは、家具部分、例えば扉を、ガイドレールに対して相対的に摺動可能に支持するために使用され、この場合、ガイドキャリッジは、組付け状態で、一方では接続部分を介して家具部分に接続されており、他方では滑走機構を介してガイドレールに沿って可動に支持されている。家具部分の、場合によっては生じる歪みによって、かつ／または家具本体に対して相対的に行われる家具部分の調節によって、このような家具部分の位置変更がガイドキャリッジにも伝達される。このようなことは最終的には、閉鎖位置での扉の傾きにつながる恐れがあり、かつ／または他の家具部分に対して共通の閉鎖平面に配置されないことにつながる恐れがある。

【0005】

本発明の課題は、上述した欠点を回避する冒頭で述べた形式のガイドキャリッジを提供することである。

【0006】

この課題は、本発明によれば、請求項1の特徴により解決される。本発明のさらに好適な構成は、従属請求項に記載されている。

【0007】

本発明によればすなわち、少なくとも1つの位置決め装置が設けられており、位置決め装置によって、接続部分は、滑走機構に対して相対的に、少なくとも1つの直線方向で位置決め可能であるようになっている。

【0008】

位置決め装置によって、家具部分に接続すべき接続部分を組付け状態で、高さ方向で、かつ／または側方方向で、かつ／または奥行き方向で、滑走機構に対して相対的に位置決めすることができる。

【0009】

位置決め装置はこの場合、少なくとも1つの可動に支持された操作エレメントを有してよく、操作エレメントの操作により、滑走機構に対して相対的に接続部分の位置を能動的に調節可能である。選択的に、または補足的に、位置決め装置は、例えば接続部分と滑走機構との間のセルフロック式の接続によって、滑走機構に対して相対的な接続部分の位置を受動的に補償可能な補償装置として形成されていてよく、接続部分は、セルフロック式の接続に抗する力を付与することにより、滑走機構に対して相対的に調節可能である。これは例えば、摩擦接続的な接続によって行うことができ、したがって、接続部分は、摩擦力を克服した後、滑走機構に対して相対的に調節可能である。すなわち、接続部分は、組み付けられた家具部分に対して（例えば、家具部分を閉鎖位置の方向に押すことにより）力を加えることにより、摩擦力が克服された後、滑走機構に対して相対的に調節することができる。これにより存在するかもしれない家具部分の歪みおよび／または誤差のある位置を修正することができる。

【0010】

1つの実施例によると、接続部分は滑走機構に取付け装置を介して取り外し可能に、好適には滑走機構に接続部分を懸吊することにより、接続可能であって、少なくとも1つの位置決め装置は、取付け装置とは別個に形成されていて、接続部分に配置されていてよい。すなわちこのような構成により、以下の快適な可能性、すなわち、

10

20

30

40

50

第1の組付けステップで、滑走機構を、接続部分とは別個に独立して、ガイドレールに取り付け、

第2の組付けステップで、接続部分を、滑走機構とは別個に独立して、家具部分に取り付け、

第3の組付けステップで、家具部分を、家具部分に取り付けられた接続部分を介して、取付け装置を用いて、ガイドレールに取り付けられた滑走機構に接続し、

さらなるステップで、接続部分と滑走機構との接続状態で、滑走機構に対して相対的な接続部分の位置を、少なくとも1つの位置決め装置によって調節する、可能性が提供される。

【0011】

10

1つの別の実施例によれば、第1の位置決め装置と、少なくとも1つの第2の位置決め装置とが設けられており、接続部分は、第1の位置決め装置によって高さ方向で滑走機構に対して相対的に調節可能であって、第2の位置決め装置によって側方方向で滑走機構に対して相対的に調節可能であって、第1の位置決め装置と少なくとも1つの第2の位置決め装置とは接続部分に配置されていてよい。位置決め装置を接続部分に配置することにより、接続部分と滑走機構とが接続された状態で、位置決め装置に対して改善された操作性を得ることができ、これにより、ガイドレールに対して相対的に離れた（例えば低い）位置にいる人が位置決め装置を操作することができる。

【0012】

20

1つの実施例によれば、滑走機構は、好適にはU字型に形成された支持体を有していてよく、接続部分は少なくとも1つの取付け装置によって支持体に接続されている、または取り外し可能に接続可能である。この場合、接続部分を家具部分に予め取り付けることができ、予め取り付けられた接続部分は例えば、懸吊、挿入、または押込みにより支持体に接続可能である。構造的に簡単な手段では、取付け装置は、支持体に配置された少なくとも1つの支持個所を有していて、この支持個所は、接続部分の組付け状態で、接続部分の対応する凹部内に係合する。機構的に逆であっても勿論よく、この場合、支持個所が接続部分に、対応する凹部が支持体に配置または形成されている。

【0013】

本発明による装置は、少なくとも1つのガイドレールと、上述した形式の少なくとも1つのガイドキャリッジとを有している。

30

【0014】

本発明のその他の詳細および利点は、以下の図面の説明により明らかである。

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図1a】ガイドシステムによって家具本体に対して相対的に可動に支持されている家具部分を備えた家具の1つの斜視図である。

【図1b】図1aの家具の別の斜視図である。

【図2a】家具の部分領域を示す図である。

【図2b】ガイドレールに沿って走行可能に支持されているガイドキャリッジを示す拡大図である。

40

【図3】滑走機構と、滑走機構に取り付けるべき接続部分とを有したガイドキャリッジを示す斜視図である。

【図4】ガイドキャリッジを後方から見た斜視図である。

【図5】ガイドキャリッジを前方から見た斜視図である。

【図6a】取付け具部分が1つの位置にあるガイドキャリッジを示す図である。

【図6b】取付け具部分が側方方向で図6aとは異なる位置にあるガイドキャリッジを示す図である。

【図7】ガイドキャリッジの分解図である。

【0016】

図1aには、家具1の斜視図が示されており、この家具は、ガイドシステム5によって

50

家具本体 2 に対して相対的に可動に支持されている家具部分 3 a, 3 b および 4 a, 4 b を有している。ガイドシステム 5 は、長手方向 (L) を有した第 1 のガイドレール 6 と、長手方向 (L) に対して横方向に、好適には直角に、延在している、家具部分 3 a, 3 b を方向 (Z) でガイドするための第 2 のガイドレール 1 1 とを含み、家具部分 3 b に接続されたガイドキャリッジ 8 は、第 1 のガイドレール 6 に沿って、かつ第 2 のガイドレール 1 1 に対して相対的に可動に支持されている。第 1 のガイドレール 6 は例えば、家具本体 2 の上面に載置されていてよく、第 1 のガイドレール 6 と第 2 のガイドレール 1 1 とは高さ方向で互いに間隔を置いている、または同じ高さに配置されていてよい。家具部分 3 a, 3 b は、互いに平行な位置で、側方の中空室 7 a 内に挿入することができる。家具部分 4 b に接続された第 2 のガイドキャリッジ 8 a によって、別の両家具部分 4 a, 4 b を、第 1 のガイドレール 6 に対して相対的に動かすことができ、互いに平行な位置では、第 2 の側方の中空室 7 b 内へと挿入することができる。家具部分 3 a, 3 b および 4 a, 4 b はそれぞれ家具ヒンジ 1 0 によって互いに旋回可能に接続されており、すなわちこれにより家具部分 3 a, 3 b および 4 a, 4 b はそれぞれ、鉛直方向に延在する軸を中心として互いにヒンジ結合されている。

10

【0017】

図 1 b には家具 1 が示されており、この場合、家具部分 3 a, 3 b および 4 a, 4 b はそれぞれ互いに平行に向けられていて、長手方向 (L) に対して横方向の方向 (Z) で、側方の中空室 7 a, 7 b 内に挿入可能である。第 1 の家具部分 3 a と第 2 の家具部分 3 b とは、互いに離間された複数の家具ヒンジ 1 0 を介して互いに連結されており、家具部分 3 a, 3 b は、家具部分 3 a, 3 b が側方の中空室 7 a 内に挿入可能である平行な位置から、家具部分 3 a, 3 b が互いに同一平面の位置をとる、内部の柵 9 を隠す第 2 の位置へと移動することができるように支持されている。

20

【0018】

図 2 a には家具 1 の部分領域が示されており、この場合、第 2 の家具部分 3 b は、見易さの理由から図示されていない。ガイドレール 6 は、家具 1 の上面に配置可能であり、家具部分 3 b に接続可能なガイドキャリッジ 8 は、ガイドレール 6 に沿って走行可能である。

【0019】

図 2 b には、図 2 a の円で取り囲まれた領域が拡大図で示されており、ガイドキャリッジ 8 の構造が詳しくわかる。ガイドキャリッジ 8 は滑走機構 1 2 を含み、この滑走機構は、好適には U 字型に形成された支持体 1 3 に接続されている、または接続可能である。滑走機構 1 2 は、ガイドレール 6 に沿って転動可能な（ここには図示されていない）少なくとも 1 つの回転可能なころ 1 8 を含む。U 字型の支持体 1 3 は、側方方向で、ガイドレール 6 の、鉛直に延在するウェブ 6 a 上に被せ嵌めることができ、この場合、ウェブ 6 a は組付け状態で、支持体 1 3 の U 字型の区分の内側に受容されている。支持体 1 3 には、支持部分 1 7 が、好適には取り外し可能に、接続されており、支持部分 1 7 は、ヒンジ機構 1 6 を介して、家具部分 3 b に取り付けるべきすくなくとも 1 つの取付け具部分 1 5 にヒンジ結合されている。支持部分 1 7、ヒンジ機構 1 6、および取付け具部分 1 5 は一緒に、滑走機構 1 2 の支持体 1 3 に接続可能な接続部分 1 4 の構成ユニットを形成している。

30

40

【0020】

図 3 にはガイドキャリッジ 8 が示されており、ガイドキャリッジ 8 は、滑走機構 1 2 と、支持体 1 3 と、この支持体に取り付けるべき接続部分 1 4 とを有している。滑走機構 1 2 は、少なくとも 1 つの、好適には複数のころ 1 8 を含み、この場合、鉛直方向の回転軸を有する 2 つ以上のころ 1 8 および／または水平方向の回転軸を有する 2 つ以上のころ 1 8 が設けられていてよい。接続部分 1 4 は、家具部分 3 b に予め組み付け可能であり、この場合、予め組み付けられた接続部分 1 4 は少なくとも 1 つの取付け装置 1 9 により支持体 1 3 に接続可能である。取付け装置 1 9 は、支持体 1 3 に配置された少なくとも 1 つの支持個所 2 0 を有していてよく、この支持個所は、接続部分 1 4 の組付け状態で、接続部分 1 4 の対応する凹部 2 1 内に係合する。少なくとも 1 つの支持個所 2 0 は、組付け状態

50

で、実質的に滑走機構 12 と同じ高さに位置しており、これにより、側方の僅かな傾動モーメントが滑走機構 12 内へと導入される。図示した実施例では、鉛直方向で互いに離間されて位置する 2 つの取付け装置 19, 19a が設けられており、これら取付け装置によって、接続部分 14 は支持体 13 に取り外し可能に接続可能である。このために、支持体 13 は、高さ方向で互いに離間されて位置する少なくとも 2 つの支持個所 20, 20a を有しており、これら支持個所は組付け状態で、接続部分 14 の、高さ方向で互いに離間されて位置する 2 つの凹部 21, 21a にそれぞれ係合する。すなわち、家具部分 3b に予め組付けられた接続部分 14 は、両凹部 21, 21a で、支持体 13 の両支持個所 20, 20a に懸吊されてよく、これにより、支持体 13 に対する接続部分 14 の極めて簡単な（懸吊による）組付けと、（持ち上げによる）取外しとが得られる。接続部分 14 は、図示した実施例では、（凹部 21, 21a を介して支持体 13 の支持個所 20, 20a に取り付けることができる）1 つの支持部分 17 と、高さ方向で互いに離間されて位置し、家具部分 3b に取り付けるべき 2 つの取付け具部分 15, 15a と、1 つのヒンジ機構 16 とを有しており、このヒンジ機構により、取付け具部分 15, 15a は支持部分 17 に対して相対的に、好適には組付け状態で鉛直方向に延びる軸を中心として旋回可能に、接続されている。

10

【0021】

図 4 にはガイドキャリッジ 8 が示されており、この場合、接続部分 14 は、凹部 21, 21a を介して支持体 13 の両支持個所 20, 20a に接続されている。接続部分 14 は、支持体 13 に対して相対的に接続部分 14 を持ち上げるにより簡単な取外しを行うことができ、この場合、付加的な固定手段を解除する必要はない。

20

【0022】

図 5 には、ガイドキャリッジ 8 が斜視図で示されており、家具部分 3b に取り付けるべき取付け具部分 15, 15a を備えた支持部分 17 が、支持体 13 に組み付けられている。位置決め装置 23 により、接続部分 14 の取付け具部分 15, 15a は、滑走機構 12 に対して相対的に、少なくとも 1 つの直線方向に沿って、この場合は高さ方向（H）に沿って位置決め可能である。位置決め装置 23 は、図示の構成では、ねじ山区分 24 を含み、このねじ山区分は、支持ブロック 25 に螺合する。ねじ山区分 24 は回転可能に、しかしながら軸方向では摺動不能に支持部分 17 に配置されている。操作エレメント 27（例えば工具受容部を含む）の操作により、ねじ山区分 24 を回転させることができ、この場合、支持ブロック 25（ひいては取付け具部分 15, 15a）は高さ方向（H）で調節可能となっている。支持ブロック 25 を直線的にガイドするために、ねじ山区分 24 に対して平行に延在するガイドロッド 26 が設けられていて、このガイドロッドに沿って、支持ブロック 25 は、ねじ山区分 24 の回転運動の際に自由に摺動可能であるように支持されている。位置決め装置 23 によって、家具部分 3b は組付け状態で高さ方向（H）において別の家具部分 3a に対して相対的に調節可能である。

30

【0023】

図 6a にはガイドキャリッジ 8 の後方から見た斜視図が示されており、この場合、別の位置決め装置 23a が設けられていて、この別の位置決め装置によって、取付け具部分 15, 15a に接続すべき家具部分 3b を、側方方向（X）に沿って他方の家具部分 3a に対して位置決め可能である。取付け具部分 15, 15a はそれぞれ、家具部分 3b に取り付けるべきスライド部分 28 を有しており、このスライド部分 28 はそれぞれ側方方向（X）に沿って、ベース部分 29 に対して相対的に直線的に摺動可能に支持されている。スライド部分 28 とベース部分 29 とはそれぞれ互いに摩擦接続的に接続されており、摩擦力に抗する力を加えることにより、スライド部分 28 はベース部分 29 に対して相対的に摺動可能である。両取付け具部分 15, 15a を旋回可能に支持するためのヒンジ機構 16 も示されており、このヒンジ機構 16 は、旋回可能に支持された少なくとも 2 つのヒンジレバー 16a, 16b を有している。

40

【0024】

図 6b にはガイドキャリッジ 8 が示されており、この場合、スライド部分 28 は、家具

50

部分 3 b に力を加えることにより、側方方向 (X) に沿って、ベース部分 2 9 に対して相対的に摺動され、このことは、図 6 a と図 6 b を直接比較することにより明らかである。

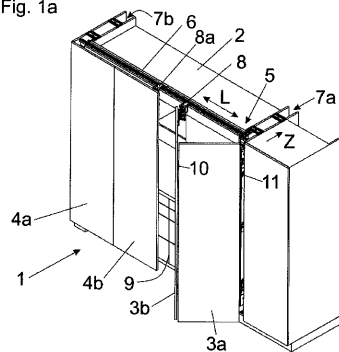
【0025】

図 7 には、ガイドキャリッジ 8 が分解図で示されている。支持体 1 3 には、少なくとも 1 つのころ 1 8 を備えた滑走機構 1 2 が配置または形成されており、接続部分 1 4 の支持部分 1 7 は、取付け装置 1 9、1 9 a を介して、凹部 2 1、2 1 a でもって支持体 1 3 の支持箇所 2 0、2 0 a に取り付けることができる。支持部分 1 7 には、支持ブロック 2 5 が可動に支持されており、支持ブロック 2 5 は、操作エレメント 2 7 の回転により、支持部分 1 7 に対して相対的に高さ方向 (H) で摺動可能に支持されており、支持ブロック 2 5 はガイドロッド 2 6 に沿ってガイドされている。支持ブロック 2 5 には、ヒンジ機構 1 6 の両ヒンジレバー 1 6 a、1 6 b が旋回可能に接続されており、ヒンジレバー 1 6 b は保持体 3 1 に接続することができる。保持体 3 1 には、取付け具部分 1 5、1 5 a の両ベース部分 2 9 が支持プレート 3 2 を介してねじ 3 3 によって取り付けられている。取付け具部分 1 5、1 5 a のスライド部分 2 8 は、それぞれ摩擦接続的にベース部分 2 9 に接続されている。具体的な実施例では、ベース部分 2 9 とスライド部分 2 8 との間には、ばねエレメント 3 0 によって摩擦接続的な接続が形成されている。ばねエレメント 3 0 はそれぞれ、ベース部分 2 9 とスライド部分 2 8 との間に摩擦力を生成する予荷重をかけられた板ばねとして形成されている。ばねエレメント 3 0 は、この場合、ベース部分 2 9 の上面と、スライド部分 2 8 の曲げ出されたウェブ 2 8 a との間で機能する。

10

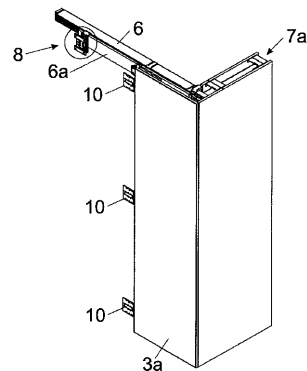
【図 1 a】

Fig. 1a



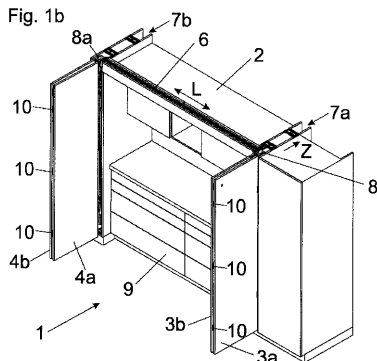
【図 2 a】

Fig. 2a



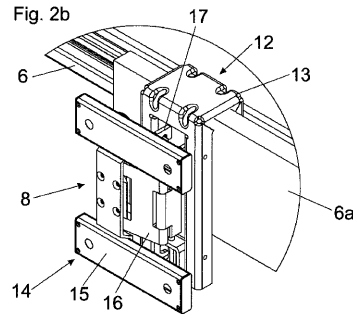
【図 1 b】

Fig. 1b



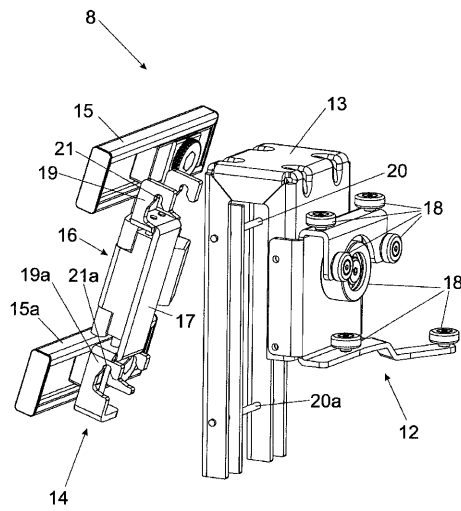
【図 2 b】

Fig. 2b



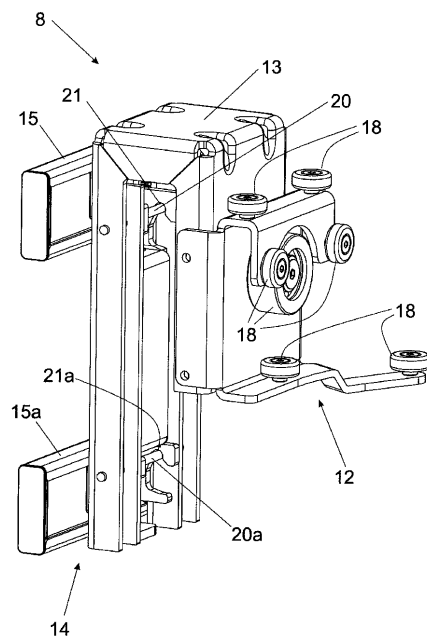
【図 3】

Fig. 3



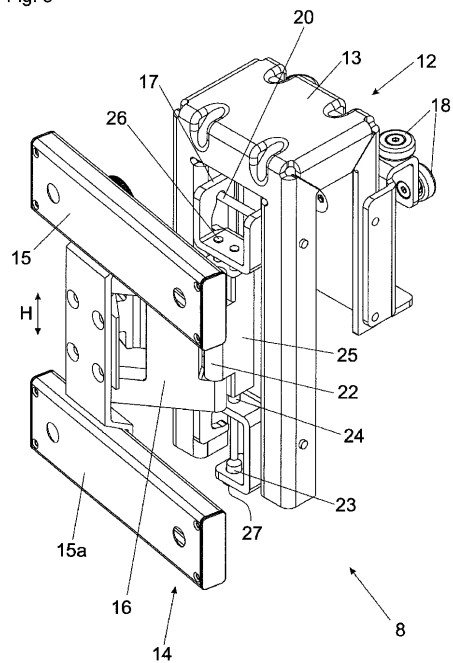
【図 4】

Fig. 4



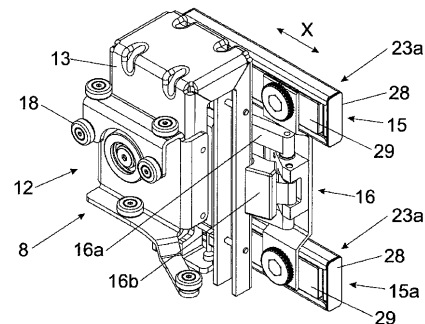
【図 5】

Fig. 5



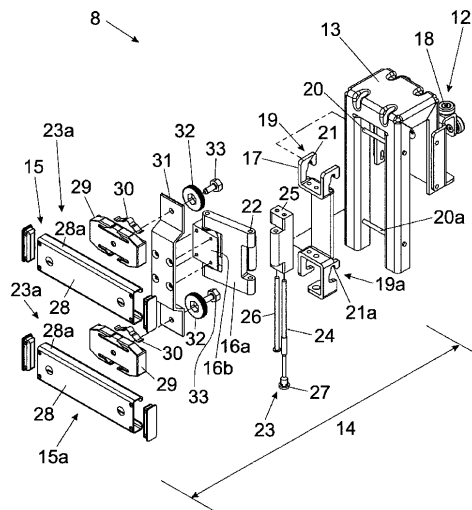
【図 6 a】

Fig. 6a



【図 7】

Fig. 7



フロントページの続き

- (74)代理人 100116403
弁理士 前川 純一
- (74)代理人 100135633
弁理士 二宮 浩康
- (74)代理人 100162880
弁理士 上島 類
- (72)発明者 マティアス ルップ
オーストリア国 ホーエンヴァイラー ロイテンホーフエン 26デー
- (72)発明者 インゴ ガッサー
オーストリア国 ヘーヒスト ヴァルトシュトラーセ 47ベー
- (72)発明者 フランツ コールヴァイス
オーストリア国 ハート アム ビアケングラーベン 10

審査官 鈴木 智之

- (56)参考文献 実開平03-078878 (JP, U)
特開2010-261301 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
E05D 15/00-15/58